

方針

身体をつくり、言葉を育て、「志の芽」を培う ～体験を通して～

重点

主旨

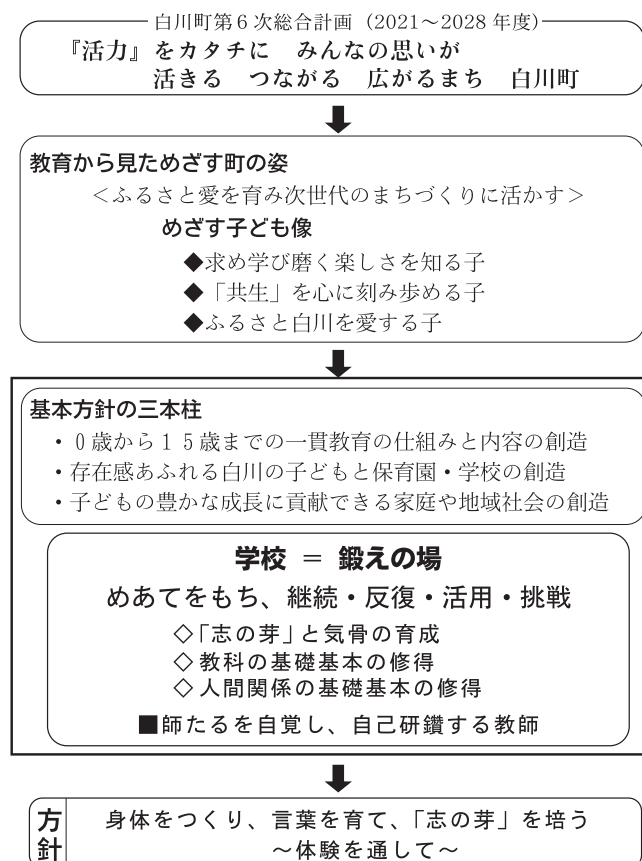
白川町では、知・心・体の調和がとれ「自立して生きる力」の育成を期し、「教育夢プラン」を策定している。このプランで、めざす子ども像を「求め学び磨く楽しさを知る子」、「『共生』を心に刻み歩める子」、「ふるさと白川を愛する子」とし、0歳から15歳までの一貫教育を進めてきた。

特に近年では、保育園、小・中学校、家庭や地域社会の相互連携を図りながら、「少人数のよさを生かした教育」、「ふるさと教育」、「食育」、「福祉教育」、誰一人取り残さない「インクルーシブ教育」及び読書活動やICTの活用を推進してきた。これにより、子どもたちには自他のよさを体感するとともに、人々や自然とのふれあいを大切にす態度が育ってきている。

一方、情報やものの氾濫、価値観の多様化、AI等情報技術の発達などにより社会は益々複雑化している。また、地震、大雨、土砂崩れ、洪水など大規模な自然災害が頻発している。このような急激な変化、予測の難しさは今後も益々加速すると思われる。さらに、未来を担うべく子どもの数が減少し、白川町の課題となっている。

そこで、学校教育においては幼児期から感動を体験する機会を充実するとともに、その体験を通して、身体をつくり、言葉を育て、「志の芽」を培うべく努め、未来を生きる子どもたちに「自立して生きる力」を育てたい。

こうした思いから、「白川町教育夢プラン」のさらなる実現をめざし、令和6年度の小・中学校教育指導の方針と重点を次のように定める。



【学校経営】

- ◎『白川町教育夢プラン』を踏まえ存在感あふれる学校づくりを全教職員で推進する。
 - 管理職は明確な学校経営ビジョンの下に、教職員一人一人に学校経営への参画意識をもたせ、もち味を生かす運営組織を確立し、インクルーシブ教育^{*1}の推進に指導性を発揮する。
 - 学習指導要領を踏まえ、小規模校・少人数のよさを十分生かしつつ、学校や地域の特色等を生かした創意ある教育課程を編成・実施・評価する。
 - 学校の教育方針や教育活動について家庭や地域社会に情報提供し、自己評価や学校関係者評価を生かして開かれた学校づくりを推進する。

【研 修】

- ◎教育公務員としての使命を自覚し、人間性と専門性の研鑽に努める。
 - 〈人間性〉親炙^{*2}・私淑^{*3}する優れた人物の発見、幅広い読書、芸術鑑賞、社会参加などを通し、自らの「志」を涵養する。
 - 〈専門性〉個々人は、自己啓発面談等によりキャリアデザインを設計し、研修に努める。

【生徒指導】

- ◎共感的な理解を大切にし、規範意識と自己指導能力を育てる。
 - 一人一人のよさや、お互いの違いが認められ、お互いを尊重し合い、よさや可能性を発揮し合う学級を経営する。
 - いじめや不登校、集団不適応、発達障がい等は、早期発見・早期対応・早期支援に徹し、教師と児童生徒や家庭等との信頼関係を高めながら、全教職員が共通理解の下に指導する。

【特別支援教育】

- ◎一人一人の教育的ニーズに応じ、社会的自立の力を育てる。
 - どの児童生徒にも、社会性や温かい人間関係が育つよう交流及び共同学習を計画的・継続的に進める。また、可茂特別支援学校のセンター的機能などを積極的に活用し、すべての児童生徒の発達支援を行う。
 - 特別な支援が必要な児童生徒に対しては、本人・保護者・関係諸機関と連携し合意形成した合理的配慮を「個別的教育支援計画」及び「個別の指導計画」に明記し、保・小・中と途切れることのない支援を全教職員が共通理解して指導する。

【健康教育】

- ◎運動に親しみ、健康・安全で活力のある生活を営む態度を育てる。
 - 進んで運動に親しむ意欲と高い目標に挑戦しようとする態度を育て、体幹など神経系の発達を促進する体づくりや運動能力の向上を図る。
 - 食及び性に関する指導についての指導体制や指導方法の充実を図るとともに、児童生徒が「疾病の予防」「傷害の防止」「健康と環境」などの問題に気付き、その解決を目指した活動を通して健康な生活を営む態度を養う。

【教科指導】

- ◎誰一人取り残さない学びの機会を整備し、一人一人の学力を高める。
 - 学ぶ喜びを実感できるよう一人一人の学力・学習状況や特性等を把握し、指導の計画・方法・教材の工夫改善に努め、個に応じたきめ細かな指導を充実する。
 - 言葉の意味や関係を理解して、読み、書き、問題勝決できる読解力を育て、言葉を通して自分の考えを表現できる学習の基盤をつくる活動を充実する。

【外国語教育】

- ◎外国語活動を通して、言語や文化への興味、積極的な態度など、コミュニケーション能力の素地を養う。
 - 学級担任、教科担任、町英語非常勤講師、ALTなどのチームによる指導を工夫し、外国語を用いたコミュニケーションの楽しさを体感させ、言語や文化への興味を高める。
 - 進んでコミュニケーションを図り達成感や充実感が得られる体験的な活動を設定し、自分の言葉で表現できる力を育てる。

【キャリア教育】

- ◎将来の夢・「志の芽」を育み、これに挑戦する気概・態度を育てる。
 - 将来の夢をいだきながら「志の芽」を育み、豊かな自己実現に向けて挑戦する気概や態度が育つようキャリア教育^{*4}の充実及び計画の工夫改善を図る。
 - 働くことが豊かな自己実現と社会的役割を果たすことであることを、特別活動、総合的な学習の時間等の体験活動を通して、社会的自立・職業的自立の基盤となる資質・能力・態度を育てる。

【道徳教育】

- ◎「共生の生き方」を核に自己を見つめる力と他を思いやる心を育てる。
 - よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。
 - 「志の芽」を養い、社会貢献への意欲を育てるために、保育園、小・中学校、家庭及び地域社会と連携し、ふるさと教育やボランティア等の体験を通して、地域ぐるみの道徳教育を推進する。

【ふるさと教育】

- ◎ふれあいを大切にし、ふるさとを愛し誇りに思う心を育てる。
 - 授業の場において、可能な限りふるさとの人・自然・産業・伝統・文化を取り入れ、体験活動を行うなど指導の工夫をする。
 - 自然体験、伝統文化体験、福祉体験、森林活動体験・農業体験・環境保全活動など白川ならではの特色ある体験活動を充実させ、ふるさとを心に刻む。

【総合的な学習の時間の指導】

- ◎探究的な学習を通して、自ら課題をもち、考え、よりよく解決する力を磨く。
 - 体験活動と言語活動を意図的に位置付け、探究的な学習（課題の設定－情報の収集－整理・分析－まとめ・表現等の一連の活動）を充実する。
 - 様々な「人との出会い」と小・中学校の関連を考慮した一貫性のある指導計画を作成し、指導方法や評価を工夫改善する。

【特別活動】

- ◎所属感や連帯感を高める活動を工夫し、社会性と自立の基礎を培う。
 - 自校の重点目標を明確にし、行事や諸活動のねらいを焦点化した指導計画になるよう工夫改善する。
 - ソーシャルスキルを高めるとともに、社会の一員として役立って生きることの喜びと難しさを体験させるために、自発的・自治的な活動、特に役割活動を活発化する。

＜教育活動全体を通じて特に配慮すること＞

- ◇ 読書活動の充実を努め、豊かな感性・倫理観・幅広い思考力を培う。
- ◇ 信頼と生命尊重・人権尊重の気風がみなぎる学校をめざす。(体罰、いじめの根絶)
- ◇ 児童生徒の命を守りきることを最優先に考え、家庭・地域社会・関係機関等との連携の強化を図り、適切かつ確実な危機管理体制を確立することに努め、児童生徒の「自らの命は自らが守る」意識を培う。
- ◇ 児童生徒が主体的・協動的に課題解決に取り組み、どの児童生徒も楽しく「わかる・できる」ように工夫・配慮された授業づくりをめざす。
- ◇ 小規模校、少人数学級は、機動力を生かした教育を進めると共に、地域社会や他校との交流活動を行うことで、社会性の涵養に努める。
- ◇ 学習活動や諸活動において、ICT機器を効果的に活用し、個別最適な学びと協働的な学びの場を確保し、能動的に学び続ける資質・能力を育成する。

令和6年度研究指定校等

- 町教育委員会研究指定校
 - ◆白川小学校（令和5年度・令和6年度）
 - ◆白川中学校（令和5年度・令和6年度）
 - ◆佐見小学校（令和6年度・令和7年度）
- 特色ある教育活動事業
 - ◆町内全小・中学校
- 福祉協力校
 - ◆町内全小・中学校
- ◆訪 問
白川中学校

町教育委員会主催の研修会等

- 特別支援教育に関する研修会
- 道徳教育研究会
- 食に関する教育研究推進協議会
- 初任者教職員研修
- 町学校支援員研修
- 福祉施設体験研修会
- 保育実習研修
- ICT活用研修

※1 インクルーシブ教育
「インクルーシブ教育」とは、国籍や人権、言語、性差、経済状況、宗教、障がいのあるなしにかかわらず、すべての子どもが共に学び合う教育のこと。同じ場で学ぶことを追求すると共に、個別の教育的ニーズのある児童生徒に対して、自立と社会参加を見据えて、その時点で教育的ニーズ的確にこたえる仕組みを整備することが重要。

※2 親炙
親しく接してその感化を受けること。

※3 私淑
直接に教えは受けませんが、ひそかにその人を師と考えて尊敬し、模範として学ぶこと。

※4 キャリア教育
「キャリア」とは、人が、生涯の中で様々な役割を果たす過程で、自らの役割の価値や自分と役割との関係を見いだしていく連なりやその積み重ねを指し、キャリア教育は、子ども・若者がキャリアを形成していくために必要な能力や態度の育成を目標とする教育的働きかけである。